

——ひとりで悩まず話してみませんか

2011.11

No. 113

北海道いのちの電話

フリーダイヤル毎月10日
0120-738-556

ファックス相談(聴覚障がい者の方)

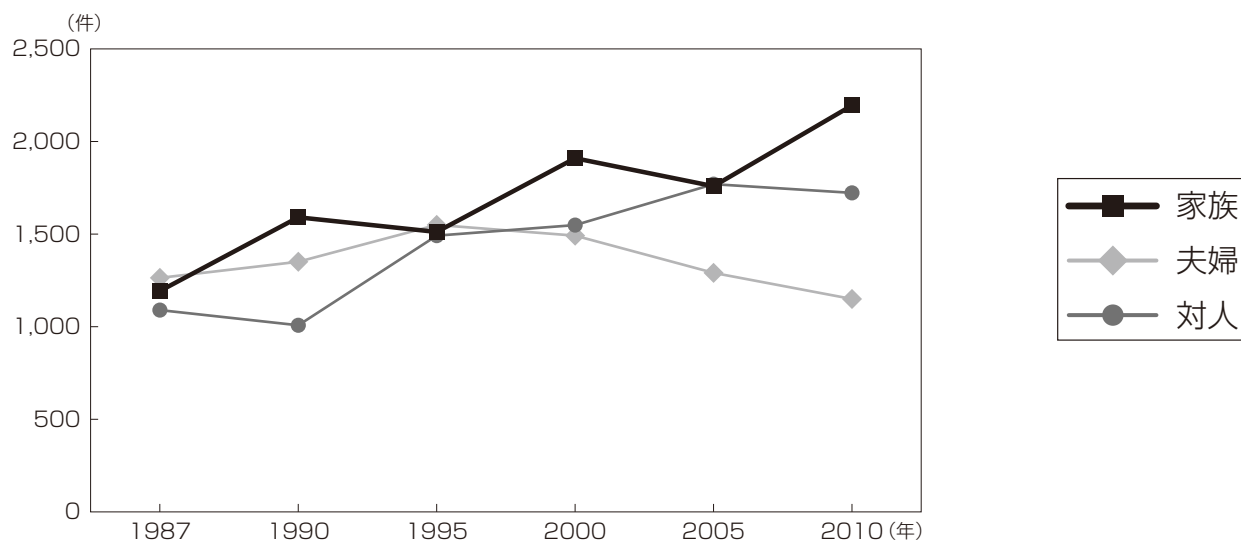
24時間 011-231-4343

011-219-3144

♡♡♡ 自殺予防を願って

親子のコミュニケーション

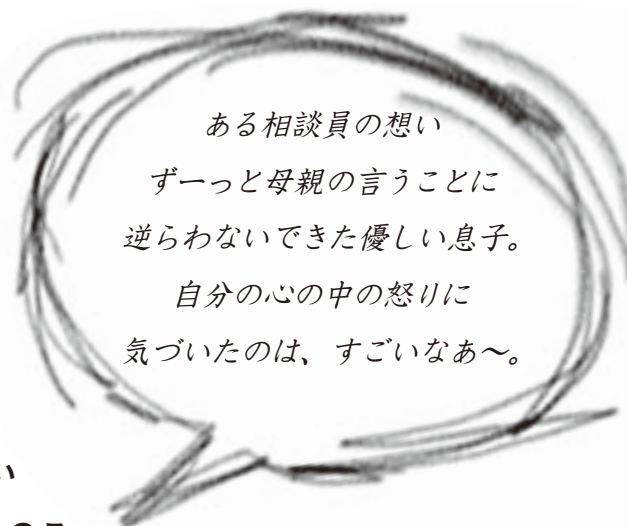
「北海道いのちの電話」の総受信件数は1987年に24時間体制になって以来25年、ほとんど変わらず毎年約18,000件です。内容で見ると、人生、病気の問題等で掛けてくる人の割合は変わりません。しかし「家族の問題」で電話を掛けてくる人は増え続けています。(下図)



よく掛かってくる相談をご紹介します(特定の方のお話ではありません。編集してあります)

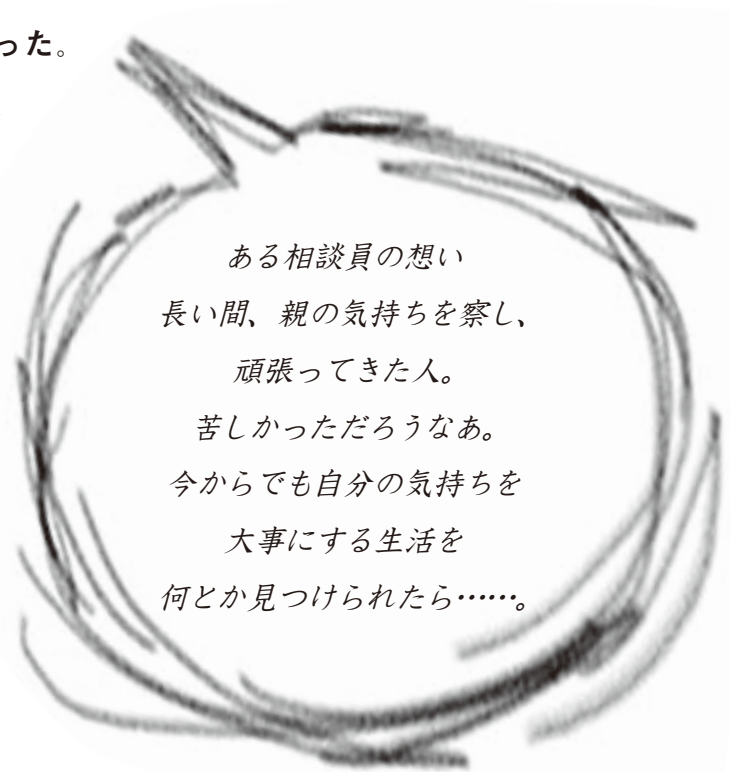
例 A 男子高校生

「小さい時から、父は仕事が忙しく、会話はほとんどなかった。母は一人っ子の僕に細かいことまで指図した。進路を決める時、僕は料理が大好きなので、料理の専門学校へ行きたいと言ったが、母は今どき大学に行かないなんてとんでもない、と言って取り合わない。親がよかれと思って言っているのだから、言うとおりにしなさいと言う。誰の人生? 苦しくてたまらない。いっそのこと、親を憎めたら気が楽になるのに……」



例B 30代女性

「母は学校の成績も習いごとにもよく出来るとほめてくれた。でもそれは良くできないとダメということでしょう。私は頑張ったことをほめてほしかった。そして父の悪口を毎日聞かされて育った。父が倒れた今、結婚して家を出ている兄、姉は何もしない。私ひとりが病弱な母と寝たきりの父の介護をしている。それが嫌なわけではないが、不公平だと思う。そう言うと、それなら貴女も結婚して、家を出て行けば良いと言う。それなら自分たちはどうするの？ 私も病気を抱え、仕事もせず、結婚もせず、父と母を見てきた。私の人生は何だったのだろう」



「家族の問題」には、親との関係で悩む人からの相談が多いです。子供にとって、一般的に親は絶対的存在。

親の愛情が条件付き（たとえば成績の良さ）であると、子供はそうでないと見捨てられるのではと恐れます。また育児を頑張る母親は、子供の成功が自分の成功と思い、子供のためと言いながら、子供の心を受けとめず、親の気持ちを押しつけがちです。

そんな自由にもものを言えない緊張感のある家庭で育った子供は、親子の関係から自然に学べるはずの対等なコミュニケーションの方法を身につけられないまま、大人になるのではないのでしょうか。

電話の向こうの声を聴いていて思うのは、親子の話合いは、とかく親の一方的な指示の形になりがちですが、子供がどんなに幼くても、親が「聴く」姿勢で子供に接することが、子供の自主性、自尊心を育て、周りの人と良いコミュニケーションを保ちながら、成長する力になるのではないのでしょうか。

すれちがい



Haruyo Noma

「北海道いのちの電話」の相談員募集

事務局（平日 9:00～17:00）

電話 011-251-6464 FAX 011-221-9095

申込用紙はホームページからもダウンロードできます。（URL <http://www.inochi-tel.com/>）

関心のある方は
お問い合わせを！

発信地域限定
岩手、宮城、福島、茨城県からのみ
「震災フリーダイヤル」実施中

時間 13:00～20:00
電話番号 0120-556-189
主 催 日本いのちの電話連盟

心よりお悔やみ申し上げます

去る10月16日、「北海道いのちの電話」前理事で精神科医の熊谷豊治様（86歳）がご逝去されました。

事務局にある、手作りの大きな丸テーブルほか数々の設備を御寄贈下さいました。

長年に渡り、組織の発展にご尽力下さいましたことに深く感謝いたします。

（理事長 南 楨子）

公開講演会の報告

去る10月29日（土）、北翔大学北方圏学術情報センター「PORTO・ポルト」（札幌市中央区南1条西22丁目）において、「北海道いのちの電話」主催の公開講演会が開かれました。講師は若林一美先生（立教女学院短期大学学長・「小さな風の会」世話人）、演題は「悲しみを通してみえること」一子供を亡くした遺族の会の23年一でした。なお、講演に先だち、阿部博光（フルート）佳子（ピアノ）御夫妻によるミニコンサートがありました。

事務局日誌（2011年7月～10月）

- 7月 2日（土） 相談員総会
- 30日（土） 運営会議
- 8月 2日（火） 広報112号発送
- 27日（土） 運営会議
- 9月10日（土） 宿泊研修（～11日）
- 24日（土） 運営会議
- 10月 1日（土） 第29回「いのちの電話」相談員全国研修大会（於・北九州）視察
- 4日（火） 34期養成講座開講式
- 12日（水） 後援会主催チャリティーコンサート
- 22日（土） 法人理事会・評議員会
- 29日（土） 自殺予防公開講演会主催
- 30日（日） 全体研修

編集後記

中秋の名月の日、1枚の写真が新聞に載った。夜空にすくと立つ1本の松の木、上空からその木を照らす月光。水面に反射した光。その松は、岩手県陸前高田市の景勝地・高田松原で、津波に耐えて、7万本の中でたった1本だけ生き残った「奇跡の松」だった。何もかも流された古里で、復興のシンボルとして存在している木。凜々しい。だが背の高い松の木は、1本だととても不安そうに見える。その姿に、身近な人との繋がりを失ってしまった多くの方々の辛さ、寂しさが重なる。（M・N）

社会福祉法人 北海道いのちの電話（開局1979年1月）
事務局 〒060-8693 札幌中央郵便局私書箱107
TEL 011-251-6464 FAX 011-221-9095
URL <http://www.inochi-tel.com/>

本誌は共同募金の配布金により発行

発行人 南 楨子
編集人 広報委員会